

国語（書写）科

1 国語（書写）科でねらうもの

学習指導要領の目標

文字を正確に理解し適切に書写する能力を育てるとともに、文字感覚を養い、文字に対する関心を深め文字を尊重し、日常に生かそうとする態度を育てる。

文字を書く基礎となる「姿勢」、「筆記具の持ち方」、「点画や一文字の書き方」、「筆順」などの事項から、「文字の集まり（文字群）の書き方」に関する事項へ、さらに、「目的に応じた書き方」に関する事項へと系統的に指導し、日常生活や学習活動に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要となる。

2 学習指導要領の特色

(1) 基本方針

- ① 筆順や字体・字形を正しくして、文字を適切に書く能力と正確に理解する能力を養う。つまり、相手、目的や意図、場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりするなど、日常生活に生きてはたらく力として育成する。
- ② 文字や文、文章を書き表す際に、読み手への伝達効果を考えて書くとともに、単に手本に従って字体や字形練習を繰り返すだけでなく、学習集団として影響し合い高め合うという学習姿勢を培う。
- ③ 文字感覚、つまり、正誤・適否・字形・間隔・バランス・漢字や仮名の調和などについての鋭い感覚や文字に対する感性を養う。また、「比較する」、「発見する」、「考える」などの多様な学習活動を工夫することで、文字を正しく見る目、鑑賞する力などを養うとともに、新たな発想や思考を創造する力を育む。

(2) 具体的事項

- ① 国語科の内容は、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の3領域と、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成される。〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容は、(1)の「ア 伝統的な言語文化に関する事項」、「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項」、「ウ 文字に関する事項」、(2)の書写に関する事項から成る。
- ② 書写については、「B 書くこと」の領域や、(1)の「ウ 文字に関する事項」の指導と密接に関連し、「B 書くこと」では、特に「交流に関する指導事項」との関連を図りつつ、目的に応じて筆記具や用材を選択し、文字、書式及び全体構成を工夫して表現する。「ウ 文字に関する事項」で関連する内容は、低学年では、平仮名及び片仮名を読み、書くこと、中学年では、漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと、高学年では、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解することである。

③ 「(2)書写に関する事項」は、文字を書く基礎となる「姿勢」、「筆記具の持ち方」、「点画や一文字の書き方」、「筆順」などの事項から、「文字の集まりの書き方」に関する事項へ、さらに、「目的に応じた書き方」に関する事項へと系統的に指導し、日常生活や学習活動に生かすことのできる書写の能力を育成する。

(3) 具体的な指導内容

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
指 導 事 項	<p>○姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。</p> <p>○点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。</p>	<p>○文字の組み立てを理解し、形を整えて書くこと。</p> <p>○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。</p> <p>○点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。</p>	<p>○用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。</p> <p>○目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。</p> <p>○毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。</p>

3 道徳との関連

学習指導要領では、国語（書写）科の指導において、その特質に応じて道徳について適切に指導する必要があることを示している。

国語（書写）科における道徳教育の指導においては、学習活動や学習態度への配慮、教師の態度や行動による感化とともに、書写の目標と道徳の目標との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う必要がある。国語（書写）科で取り扱った内容や教材を通して、相手意識や目的意識をもたせながら、生活の中に生かしていく。そのためにも、国語（書写）科の年間指導計画の作成に際して、道徳の全体計画との関連、指導内容及び時間等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うよう配慮する。

4 国語（書写）科における言語活動

他者と認め合う活動を取り入れることで、自分自身を見つめ直し、文字を通してよりよい人間関係を形成させていく。互いの考えを尊重して伝え合い、認め合っていくことで、達成感をもたせ次時への意欲につなげていく言語活動を行っていく。また、硬筆や毛筆練習で理解したことや技能を、日常に生かしていく。他教科等へ生かすために、書写で習得した知識や技能を発揮できるように工夫するとともに、相手に分かりやすく読みやすい文字を書き、伝え合うことができるような活動も絡ませて取り扱っていく。